器具を接続する際の操作の工程について

アンティリーク®輸液セットは、HD入りのバッグに側管チューブを接続して外さないことで薬液飛散を防ぎます。
HD入りのバッグに一度穿刺したビン針を抜去・次の薬液バッグに再穿刺を繰り返す管理方法は、抜去した瞬間に作業者の手元やその周辺を汚染する要因となります。

本製品は、最大で側管チューブが4本ありますのでFOLFOXなどの多剤管理にも対応しています※。
曝露対策合同ガイドラインで推奨されます様に、HD入りバッグにビン針を接続する際は、必ずゴム栓を上向きにバッグの口付近を保持し、目の高さよりも低い位置でまっすぐ深く穿刺を行います（下記写真参考）。
投与後であってもHD入りのバッグからビン針を抜去すると薬液を飛散させてしまうため、抜去しないでください。

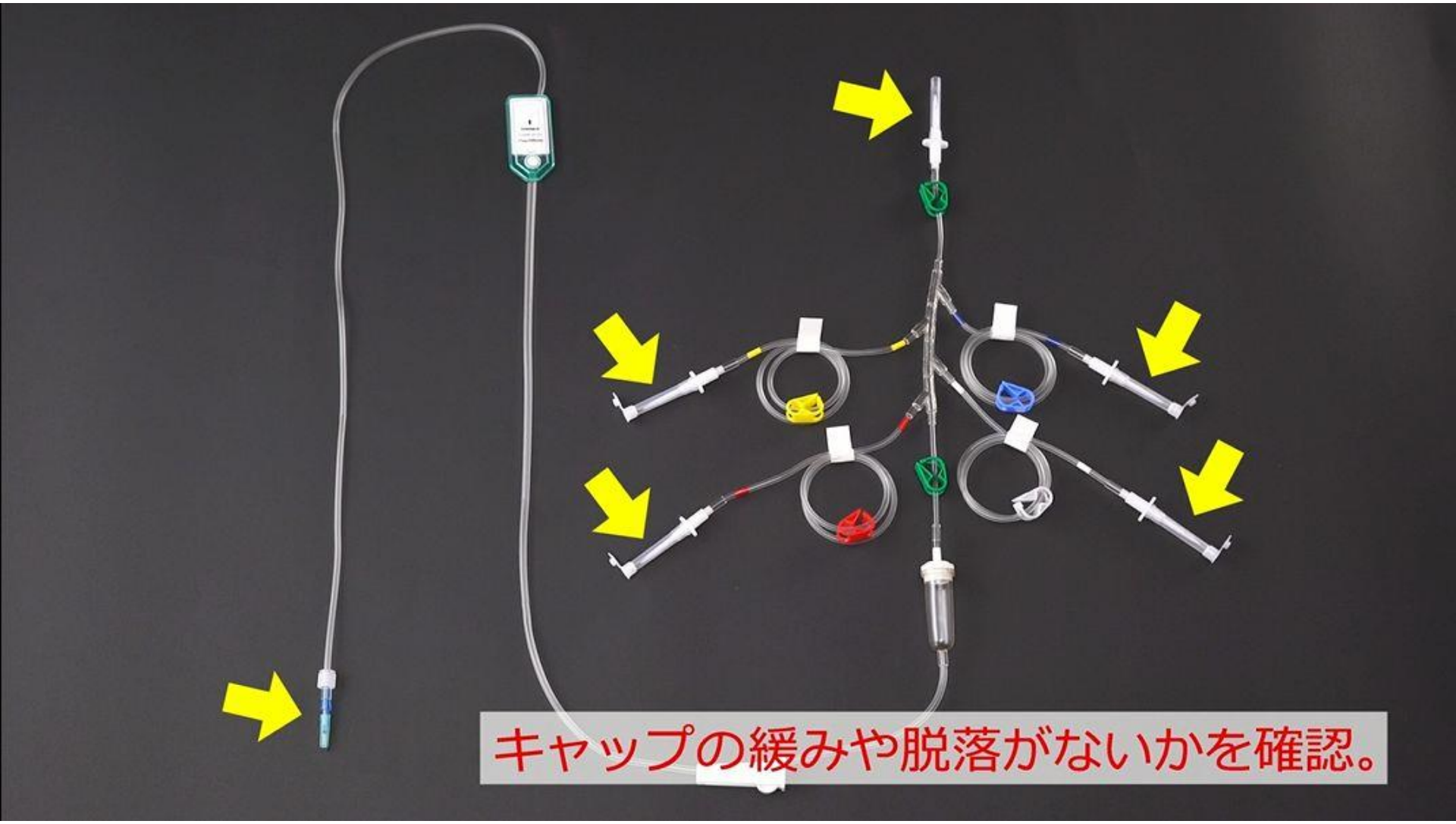
本製品は、オートプライミング機能により全てのチューブが一度にプライミングされます。調製前のプライミングや病棟での薬液ごとのプライミングは不要です。
操作方法の詳細は、別紙-1〈antileak® 操作ガイド〉をご確認ください。（WEBにて操作動画公開中⇒　http://antileak.jp/）

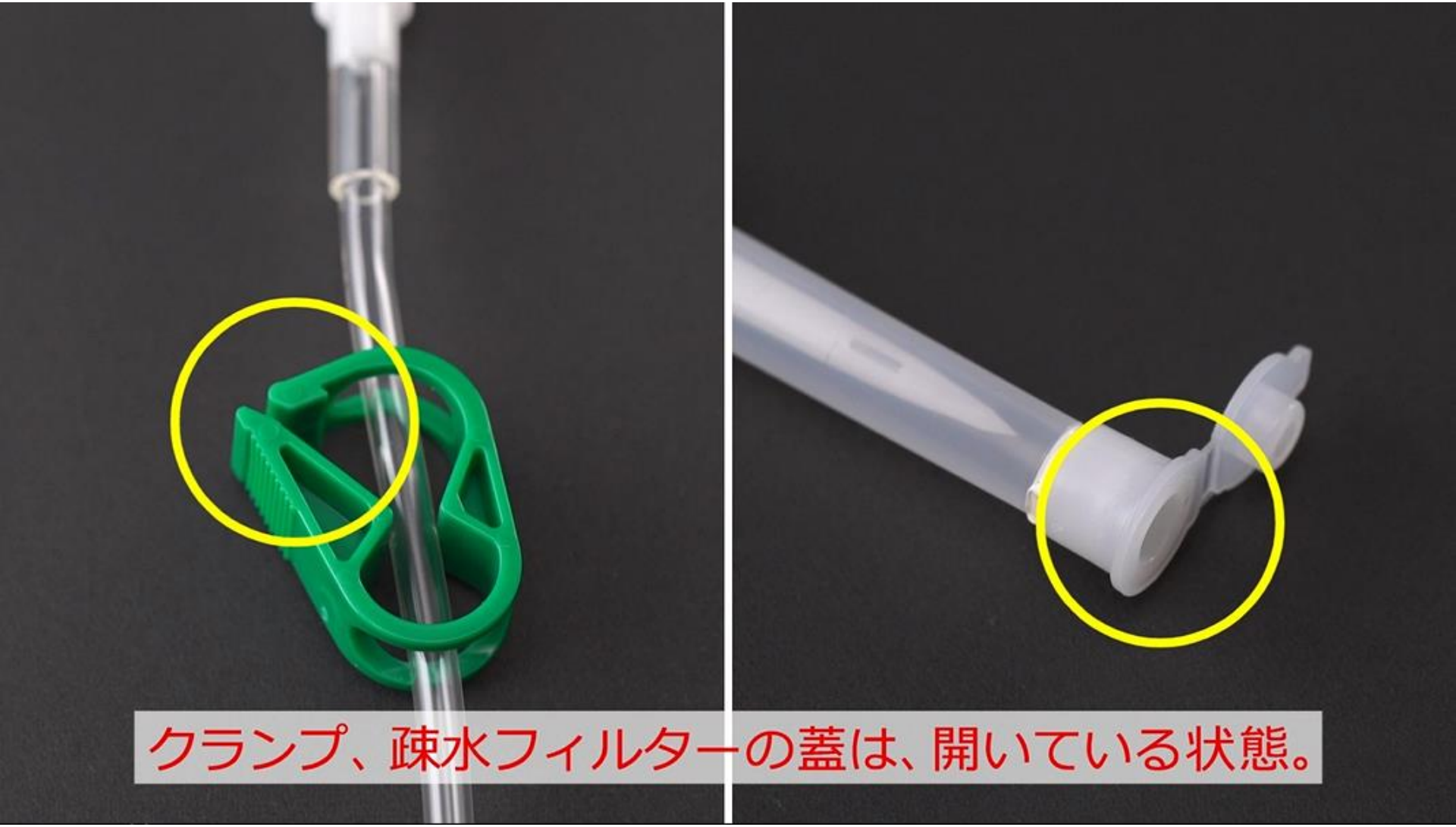
※本製品は点滴筒が1つである為、１度に１剤の流速管理を行います。同時投与は2剤以上の薬液の流速を確保し調節する必要がある為、複数の輸液セットをポートまたは三方活栓にて接続し管理します。
その際、プライミング管理がし易い様に、抗がん剤を本製品に接続し、同時投与薬剤（レボホリナートや生食など）を側管接続されることを推奨します。

Ⅰ-1

使用前の準備

アンティリーク

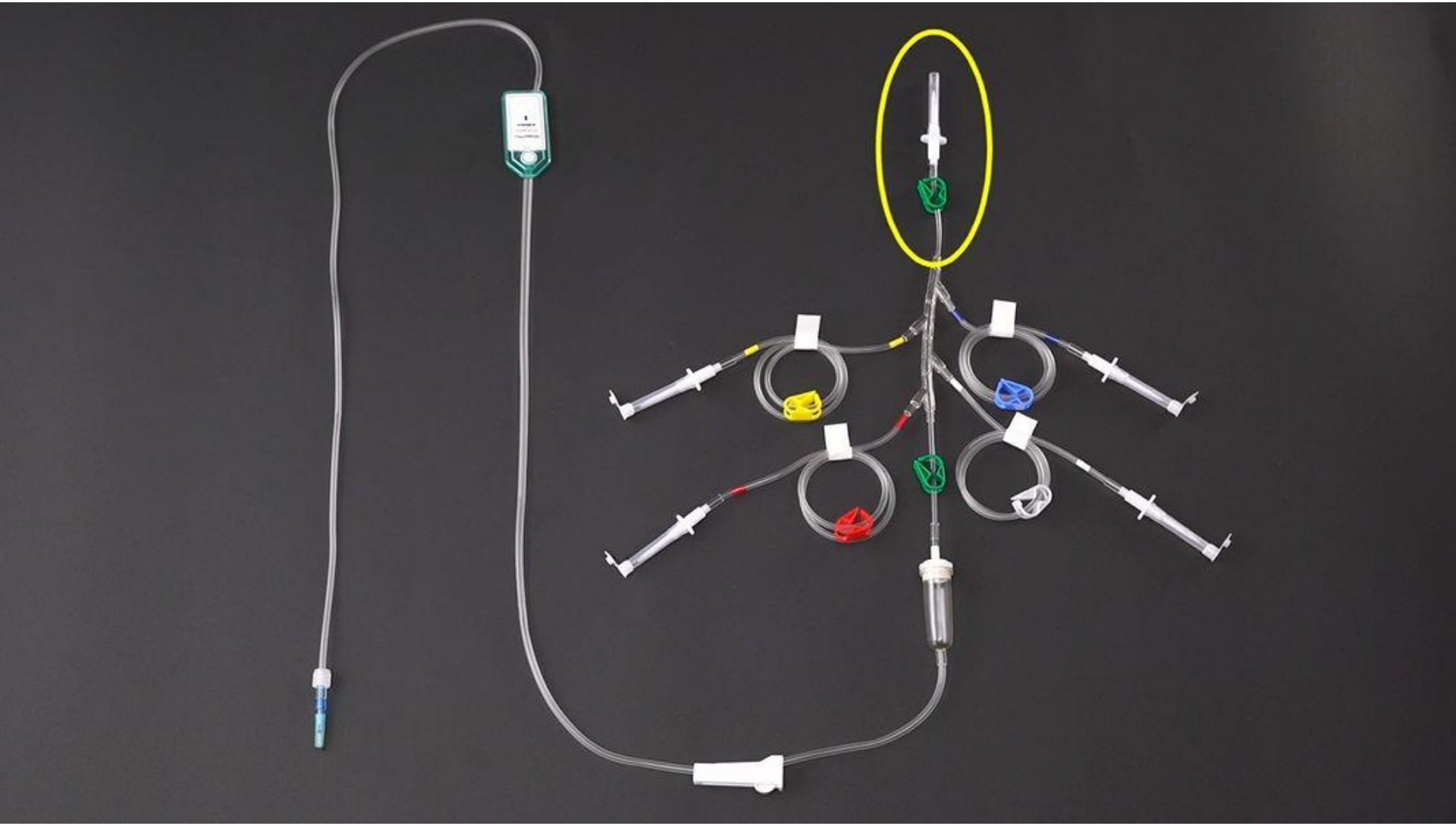

キャップの緩みや脱落がないかを確認。


クランプ、疎水フィルターの蓋は、開いている状態。

I - 2

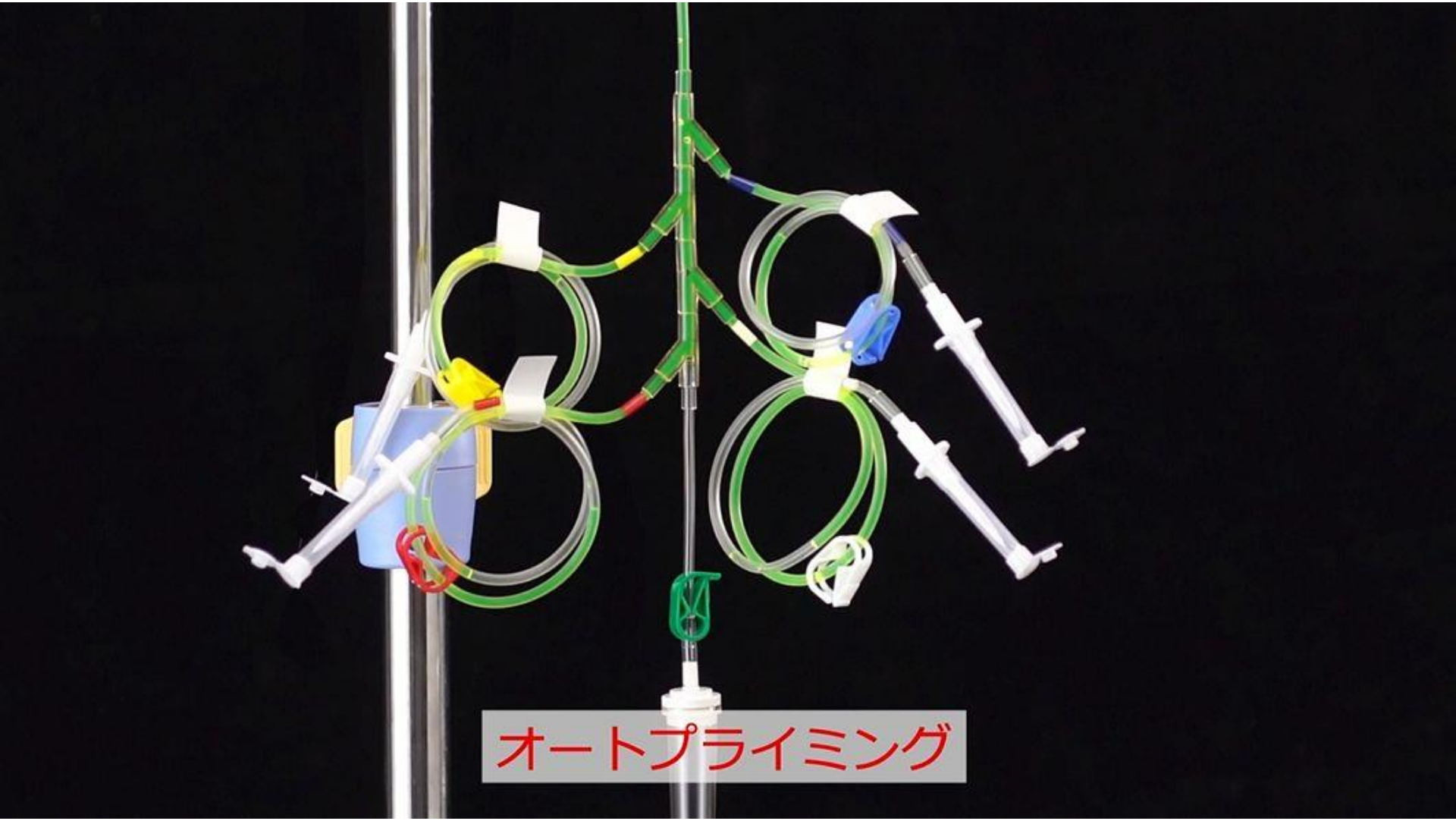
オートプライミング

アンティリーク



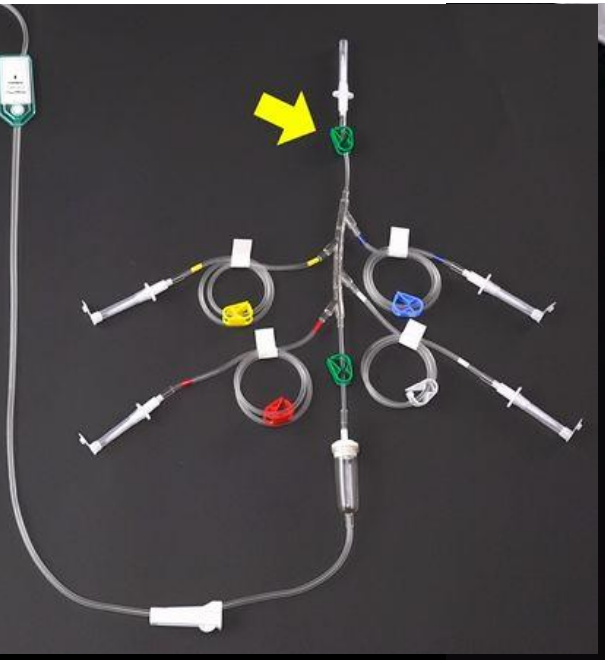
メインルートのビン針を輸液バッグに穿刺。

メインルートを点滴台に吊るす。

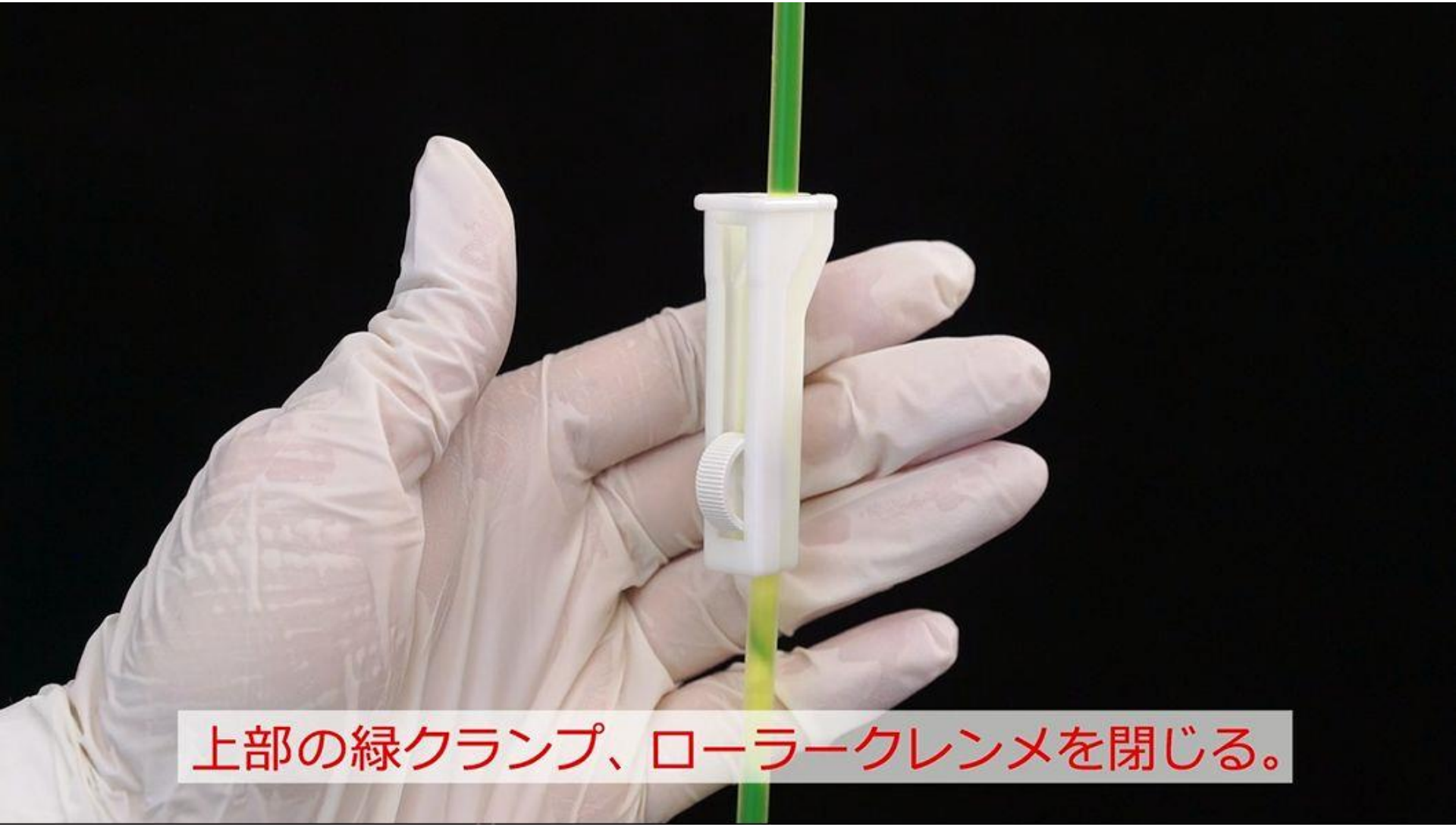


すべての側管チューブに補液が自動的に充填され
プライミングが完了します

※点滴筒は御施設で定める必要量の液だめを行い、
メインルートのプライミングを完了してください



上部の緑クランプ、ローラークレンメを閉じる。

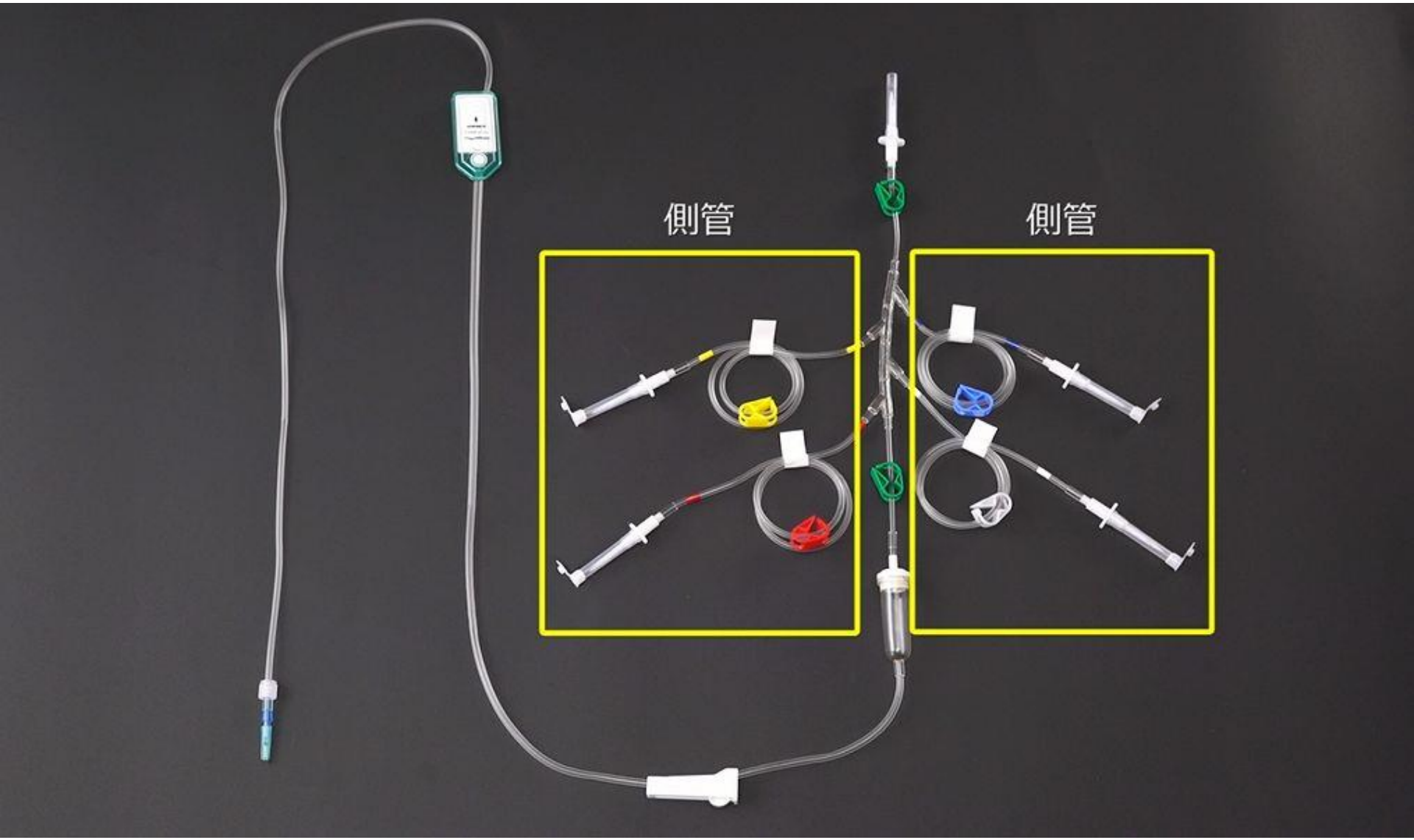

上部の緑クランプ、ローラークレンメを閉じる。

全ての側管クランプを閉じる。

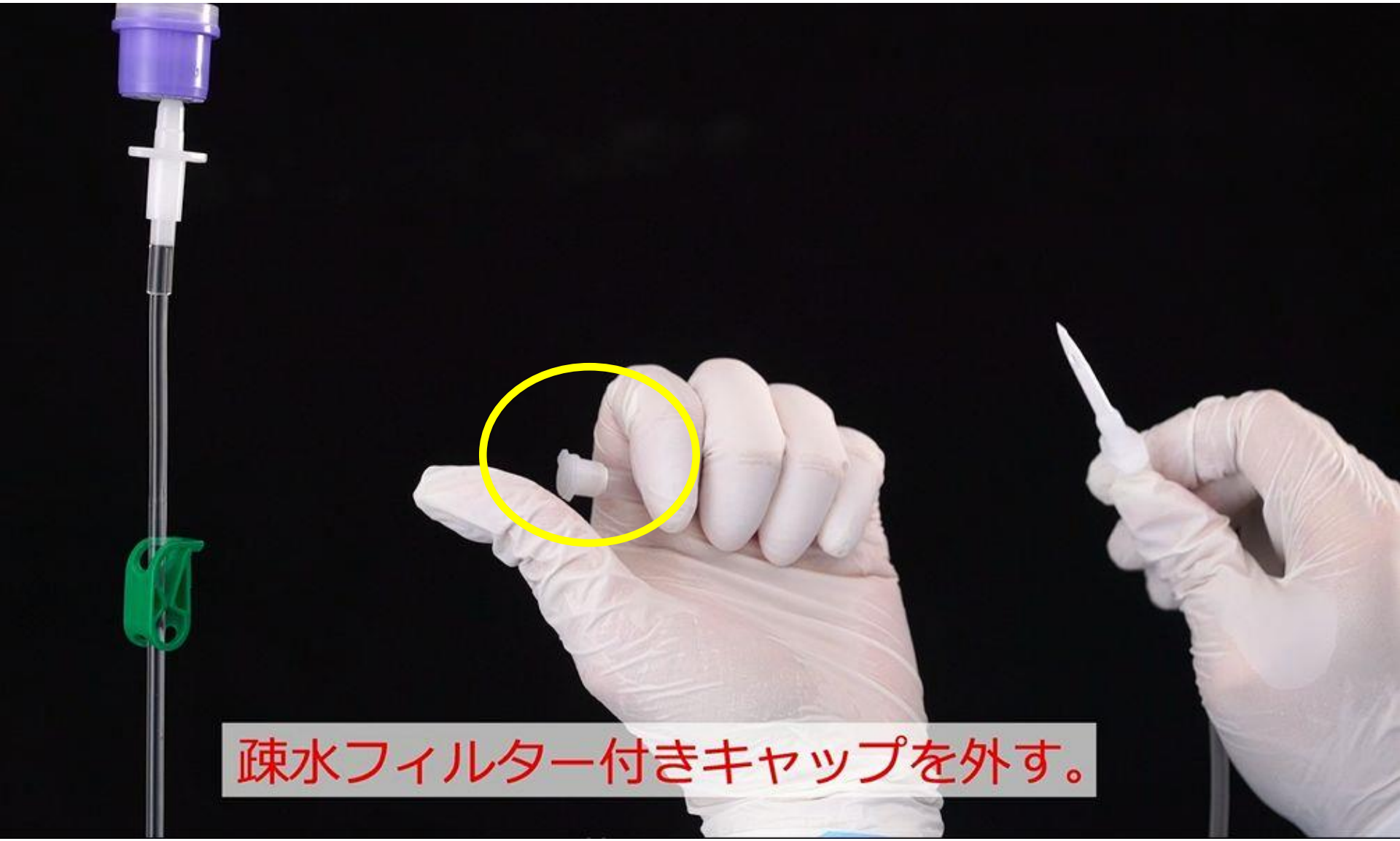
Ⅰ-3

側管投与

アンティリーク

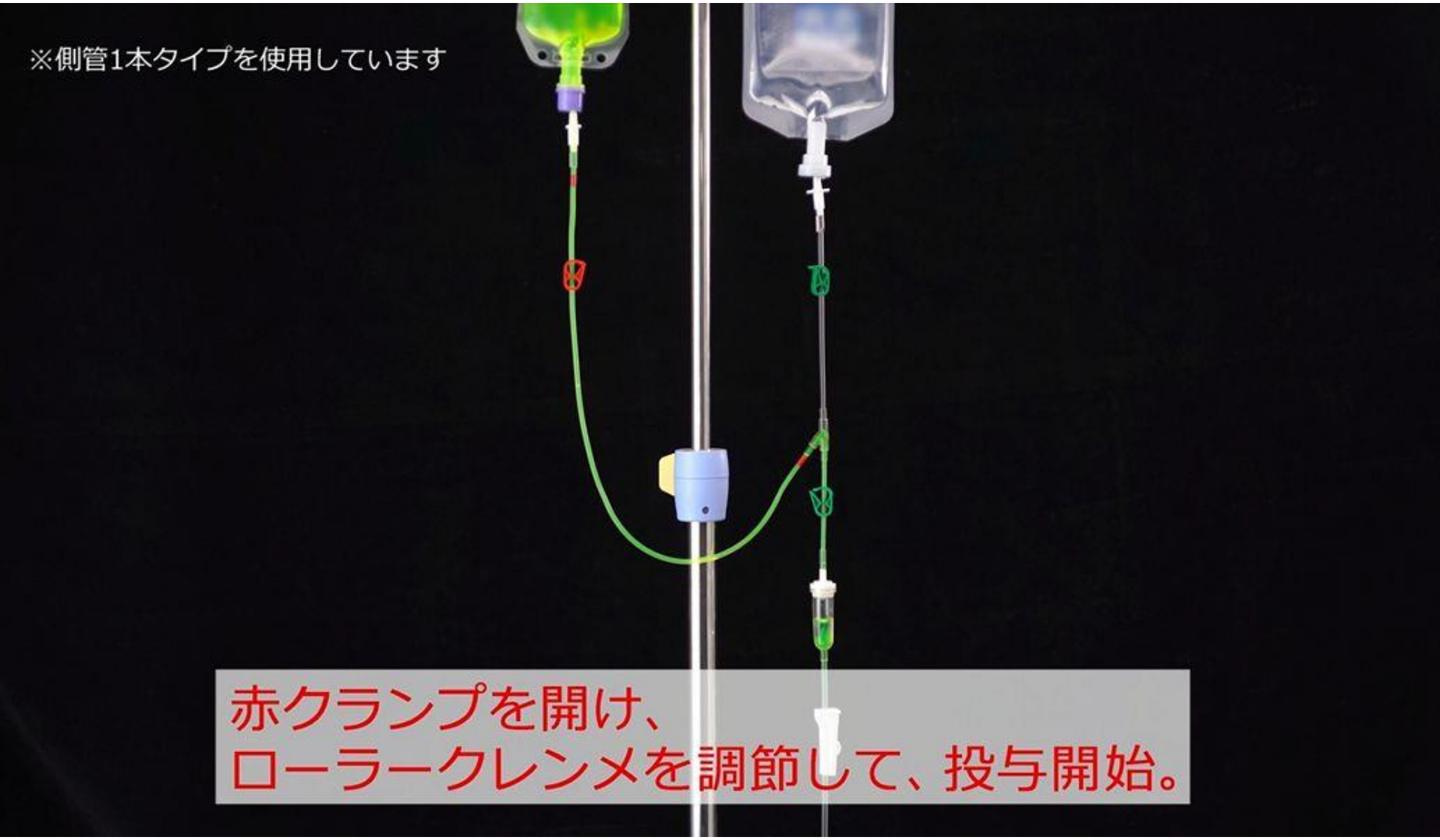

側管
側管

メインバッグ下の緑クランプが閉じられていることを確認してください

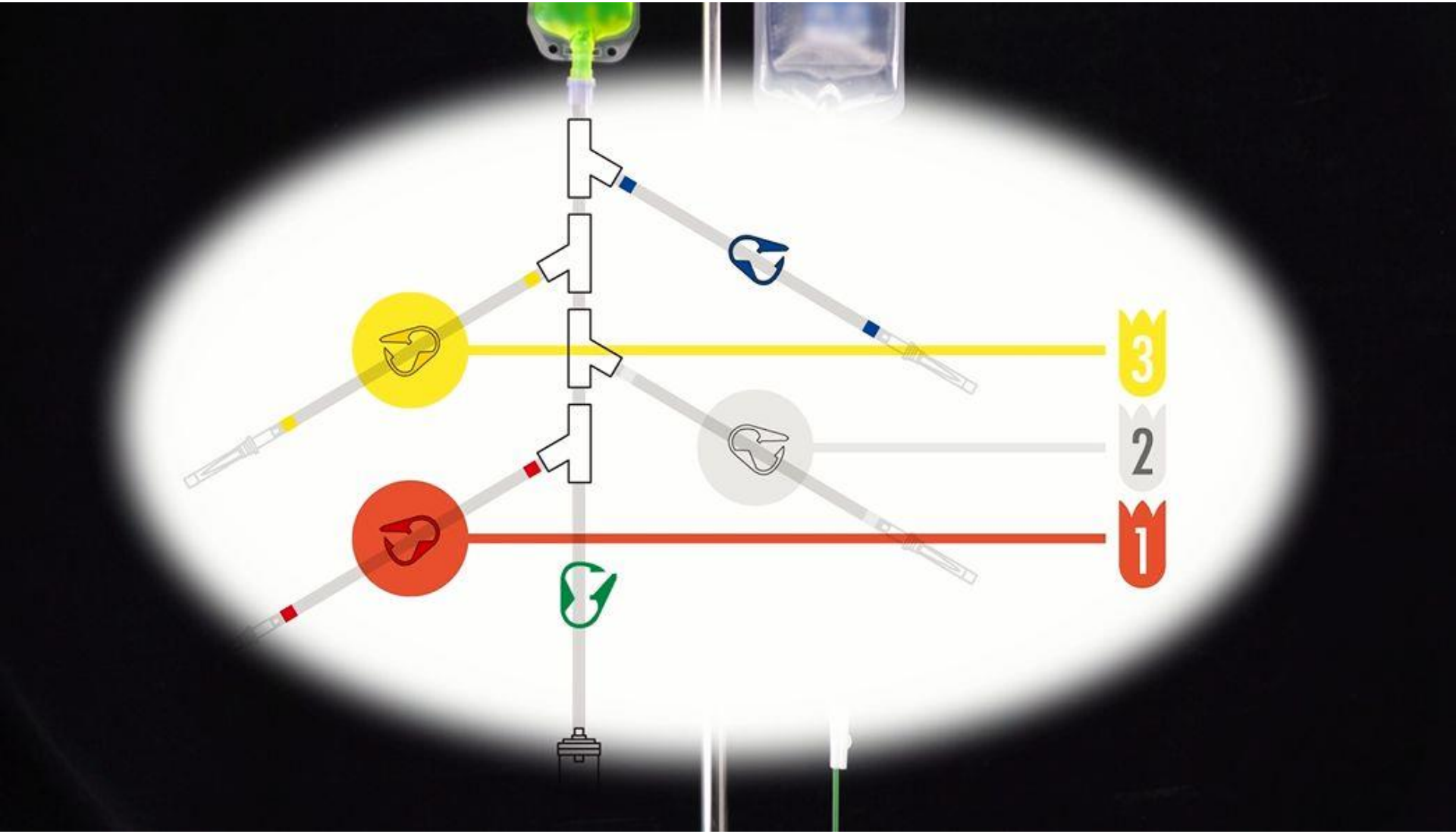

疎水フィルター付きキャップを外す。

この時輸液バッグのくび元を保持すると、バッグが加圧されません

※側管1本タイプを使用しています
赤クランプを開け、
ローラークレンメを調節して、投与開始。



赤クランプがついている側管での投与が終わりましたら
そのクランプを閉じ、輸液バッグは外しません



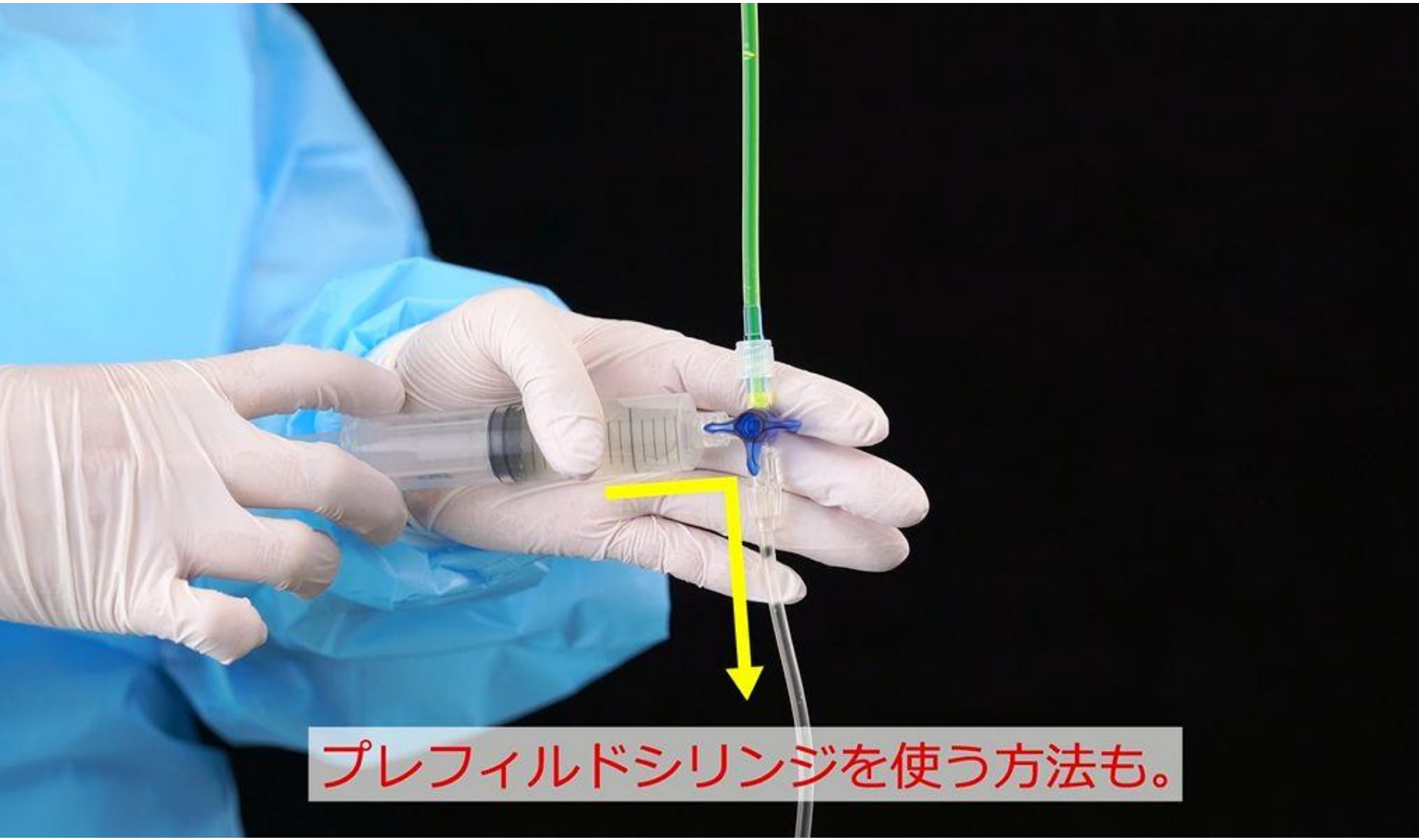
次の薬剤を投与する際は、 赤・白・黄色 の順番で
同様の手順を繰り返し投与を行っていきます

Ⅰ-4

投与が終わったら

アンティリーク

上部の緑クランプを開け、ウォッシュアウトする。



あらかじめ設置したポート部よりプレフィルドシリンジ※などを使って行う方法もあります

※生理食塩水を予め満たしたシリンジ

全ての接続を外さずに廃棄を行います

II - 1

フィルターなしの場合

※点滴筒の下流にエアが混入した場合のリカバリー方法

アンティリーク

プレフィルドシリンジで空気を上流に押し戻す。

輸液フィルター付きの製品で行いますと
破損の原因となりますのでご注意ください

II - 2

フィルターありの場合

※点滴筒の下流にエアが混入した場合のリカバリー方法

アンティリーク

エアベント付きなので、上流から輸液を流して頂ければ
自然にエア抜きができます